

1 「5か年計画」の基本構想・いじめ問題に関する基本的な考え方の理解について

- ① 「5か年計画」の策定に係る経緯と いじめ防止の基本的な考え方について、年度初めに全教職員で共通理解したか
  - ・全小中学校 実施
- ② 自校の改善プログラムの意味と対応方針を共通理解したか
  - ・全小中学校 実施

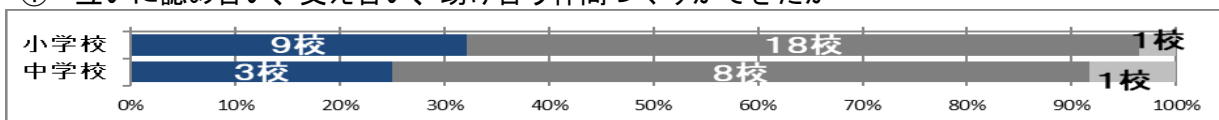
2 アンケート項目別集計結果について

《評価の割合》



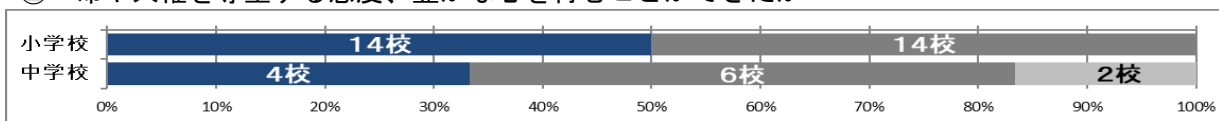
※ 項目ごとに、「やや課題がある」「課題がある」とした学校からの意見を併記

① 互いに認め合い、支え合い、助け合う仲間づくりができたか



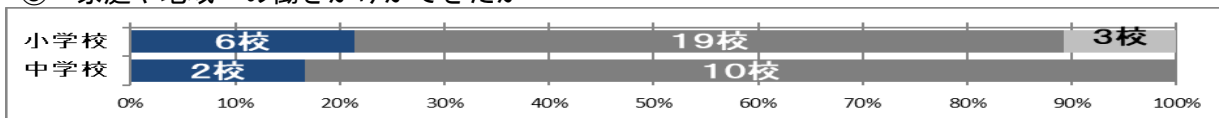
- ◆ 心の絆プロジェクトの活動、ユニット連携の活動などは2学期以降に実施予定である。
- ◆ 生徒会による取り組みは2学期に実施予定である。

② 命や人権を尊重する態度、豊かな心を育むことができたか



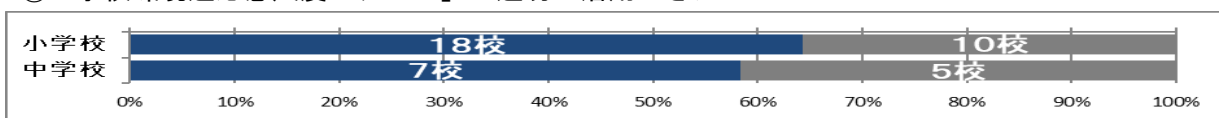
- ◆ 1学期に行事が多かったために道徳などの時間が十分にとれなかった。2学期以降はしっかりと取り組みたい。
- ◆ 1学期はいじめに関する道徳の題材を扱っていないため、2学期以降に題材設定を行い実施する。

③ 家庭や地域への働きかけができたか

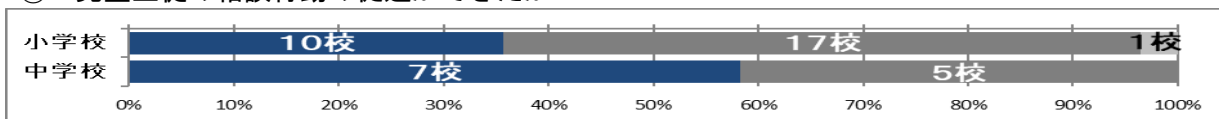


- ◆ 学校だより等を通して、いじめの未然防止についての情報提供を行う。
- ◆ 人権参観などを通して働きかける予定である。
- ◆ 学校全体の取組として2学期に人権参観を計画している。感染状況等により開催が困難な場合は人権週間として家庭にも働きかける予定である。

④ 学校環境適応感尺度「アセス」が適切に活用できたか

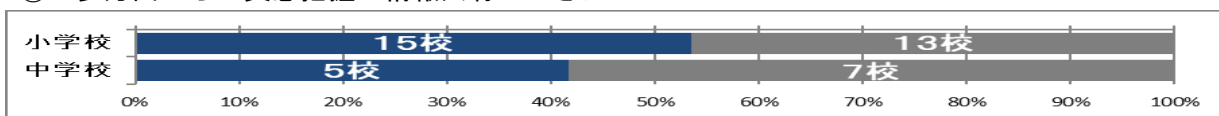


⑤ 児童生徒の相談行動の促進ができたか

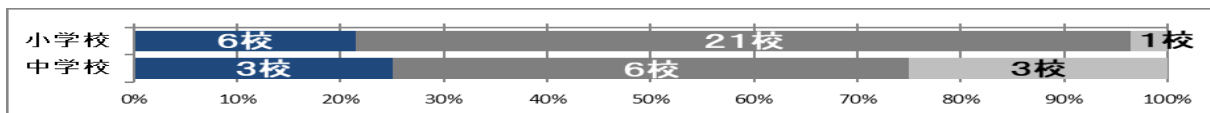


- ◆ 2学期に子ども向け相談行動促進（自殺予防教育）の授業の実施を予定している。

⑥ 多方面からの実態把握と情報共有ができたか

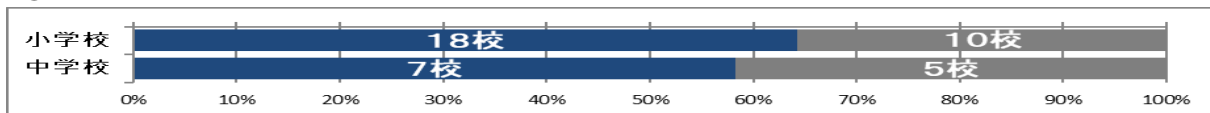


⑦ 研修の充実による教職員の資質と指導力の向上がなされたか

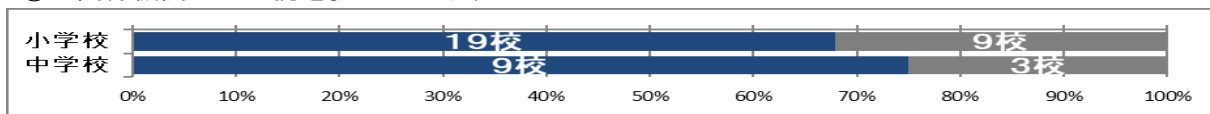


- ◆ 2学期に相談行動促進（自殺予防教育）を実施する前に、職員に浸透できるように進める予定である。
- ◆ 研修を夏休み以降に予定している。
- ◆ 研修参加者に研修内容のまとめをフィードバックできるようシステム化をしていく。
- ◆ 関係機関とも連携しながら、教職員研修を今後実施していく予定である。

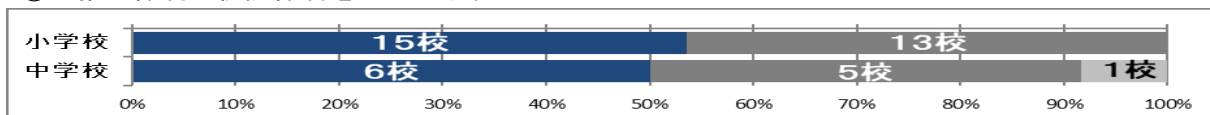
⑧ 「チーム学校」による組織的な対応がなされたか



⑨ 関係機関との連携を強化した取組がなされたか



⑩ 推進体制・検証体制を整える取組がなされたか



- ◆ 教職員間の連絡を密にし、フィードバックまで行うように共通理解を図る。

3 学校において重点的に取り組んでいる内容について

○ 小学校

- ・ いじめの未然防止、早期発見、早期対策ができるよう、児童の些細な信号を見逃さず、校内の部会を中心に全職員で情報を共有している。また、担任一人で事案を抱え込まず、チームで対応することを基本としている。
- ・ ケースによっては、教育相談センター、少年愛護センター、市家庭支援課等の関係窓口とも連携し、迅速かつ組織的な対応を行う。
- ・ 道徳科の「ローテーション授業」や専科の授業等、普段から複数の教師の目で見守り、気になる児童等を相談できる体制を組んでいる。
- ・ 毎月第3金曜日に「道徳デー」として、心シリーズを児童が家庭に持ち帰り、保護者と一緒に考える機会を設けている。命や人権を尊重する豊かな心をはぐくめるように教材を精選している。
- ・ 理由が明確でない欠席の児童へは電話連絡、3日以上欠席の児童へは理由が明確でも家庭訪問を行い、様子を見に行くよう全職員が共通理解のもと学級経営にあたっている（新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の観点から現在は、meetを活用し、出席停止の児童には学習内容や学校の様子を伝えるように努めている）。
- ・ 児童会や生活委員会によるあいさつ運動及び正しい過ごし方を呼びかけている。あいさつチェック運動を行っている。校内放送による呼びかけを行っている。
- ・ SELを学期に1回を基準として実施し、ソーシャルスキルの向上を図っている。
- ・ 本校独自の「こころの健康チェック」を、適宜実施している。
- ・ 「わが家のネットルール」としてインターネットを使用する上での決まりを考えさせることで、児童の情報モラルの向上と家庭への啓発を行った。
- ・ いじめ対策改善プログラムをはじめとして生徒指導全般に関わる校内のきまりについて改善をおこなった。
- ・ 生徒指導委員会・特別支援教育推進不登校対策委員会を定例で行い、気になる児童の現状と対応について情報共有を図っている。
- ・ 学校全体で「あいさつ・笑顔・ありがとう」の実践を7年間継続して行っている。
- ・ SC・SSWとの連携をしている。要支援児童の校内の様子の見回りを行っている。
- ・ 学期に1度のSC心の啓発授業により、児童がSCをより身近な存在に思うようになり、教育相談

を受けやすい環境を整えている。

- ・学期初めに教師から「いじめをしない させない みのがさない」宣言をし、いじめに関する「T A L Kの原則」「きょうしつ」の提示物を全教室に掲示している。
- ・3密に配慮しつつ、異学年交流の取組（音読発表会や学習の交流や縦割り班活動）を行い、異学年との触れ合いを増やし、協同性の向上を図っている。
- ・情報モラル、人権教育を行っている。特にインターネットトラブル防止講座は、保護者の参加も呼びかけ、児童と一緒に学んでいただいている。
- ・「花いっぱい緑いっぱいの学校」の活動として、児童と職員、保護者で花を植えた。
- ・保護者・地域と児童が協働して活動する「心をこめて精一杯活動」を実施している。
- ・同じユニットの小学校と合同で校外学習や自然学校を行ったり、リモートで交流したりすることによって、他校とのつながり作りも行っている。

#### ○ 中学校

- ・「いじめ」に対する教職員の認識をさらに変え、より些細な友人間のもつれやトラブルもいじめとして捉え、いじめの認知件数を増やし、「いじめの見逃しゼロ」を目指している。
- ・不登校対策について、全職員で連携し、情報共有を行い、取り組んでいる。
- ・縦横あいさつ広げよう運動の実施。上級生下級生関係なく挨拶をすることにより繋がりを広げていくようにしている。
- ・休み時間や昼食後(昼休み)には、教職員が必ず教室または廊下にいる体制をとり、生徒との会話を通して様子や思いを聞き生徒理解に努めている。日常の生徒観察を通して、些細な変化も見逃さないように注意し、いじめの早期発見や抑止に努めている。
- ・生徒会が主体となり、新入生歓迎会や球技大会を行ったが仲間づくりに効果的な取り組みとなった。
- ・全職員にハウレンソウの徹底を、軽微なことでも報告するように呼び掛けたことで改善が見られた。
- ・生徒から聞き取ったうえで校則について考えており、生徒のストレスから発生するいじめは減少していると考えられる。
- ・常に授業後の教科担当が教室に残り、次の教科担当と入れ替わる。廊下も同様に必ず教員がいる状態をつくっており、空白時間をつくらない、いつでも話を聞ける取組をしている。
- ・生徒会がコネクションプロジェクトとしてクラスの代表が体育館でフリースローやボーリングをしている様子をリモートで全クラスに送り、クラスみんなで応援することができた。普段勉強や部活動で活躍しにくい生徒が活躍している。